



あんさんぶる 七のおと Nana-note

～病気と闘う子ども達のヘアドネーションのために～

チャリティーConcert

【Program】

C.A.ドビュッシー:『ベルガマスク組曲』より
「月の光」 他
ピアノ 魚住 恵

F.ショパン: ノクターン作品9の2 他
ピアノ 大坪 加奈

D.アントルフィー:「ファウヌスの戯れ」 他
オルガン 和田(福原) 之織

服部 良一: 蘇州夜曲
山田 耕柞: 赤とんぼ 他
あんさんぶる 七のおと Nana-note
フルート 菅 敬子
オーボエ 古土井 宏子
コントラバス 山本 香織
キーボード 村上 敬子

2018 年 3月10日(土)

15:00 開演 (14:30 開場)

日本基督教団広島流川教会 礼拝堂

広島市中区上幟町8-30

入場料金 1,000 円

(小学生以下無料)

チケット取り扱い:カワイ広島

*会場駐車場がございませんので、お車でのお越しのお客様は、
お近くの民間駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

*収益はすべてチャリティーとしてNPO法人ジャーダック
(JHD&C)に寄付いたします。

協賛

カワイ広島 こまつのパン屋 至誠堂印刷株式会社 医療法人西村小児科
株式会社浜松ピアノ社 株式会社ハンディワークス 医療法人信愛会日比野病院
フィオーレ・エムシカ寺田美穂 (公)NFD 公認スクール古川悦子フラワーデザインスクール
ヘアメイク ローマ

後援

中国新聞社 広島テレビ エリザベト音楽大学
公益財団法人 がんの子どもを守る会広島支部
(会場にてがんの子どもを守る会による国際小児がんデー啓発キャンペーンも行われます。)

主催

あんさんぶる 七のおと Nana-note

お問い合わせ

090-8069-6402 (山本)





魚住 恵(うおずみ めぐみ)

エリザベト音楽大学卒業、専攻科修了。'84日仏フランス音楽コンクールピアノ部門最高位。ブリュッセル音楽院上級課程を栄誉賞にて修了。エリザベト音大博士学位取得。リサイタル他、広島交響楽団等と協演。フリーアナウンサー魚住りえと、朗読とピアノによる姉妹コンサートを広島、東京等で開催。エリザベト音大、広島文教女子大学非常勤講師。カワイ音楽教室ハイレベルコース講師。對馬寛子、井上二葉、J-C.ヴァンドネイド、J.ルヴィエの諸氏に師事。アルカンシエル、JPTA、PTNA 会員。



大坪 加奈(おおつぼ かな)

幼少の頃より故石川正司氏に師事。エリザベト音楽大学・同大学音楽専攻科修了。ドイツ国立シュトゥットガルト音楽芸術大学大学院で5年間学ぶ。オスカー・ニ国際ピアノコンクール入賞。ピアノソロの他、オーケストラとの共演を通してモーツァルトの音楽に取り組んでいる。呉市音楽家協会ピアノ理事。エリザベト音楽大学非常勤講師。



福原 之織(ふくはら しおり)

エリザベト音楽大学パイプオルガンコース卒業。同大学専攻科修了後、ウィーン国立音楽大学に留学。オルガン演奏第1ディプロムを審査員満場一致の最優秀で取得。帰国後エリザベト音楽大学大学院修士課程修了。オルガンを廣澤嗣人、山崎陽子、R.ショルツ各氏に、通奏低音をF.ボーン、I.ライナー各氏に師事。現在エリザベト音楽大学音楽文化学科教授。日本基督教団広島流川教会音楽主事。日本オルガニスト協会会員。日本賛美歌学会会員。



あんさんぶる 七のおと Nana-note

エリザベト音楽大学時代の同級生を2015年に病気で亡くしたことをきっかけに、病気と闘う方々やご家族の皆様と優しい時間を音楽で過ごせないかと考え、病院、緩和ケア病棟で演奏活動を開始。また、この親友が闘病中にウィッグを必要としていたことから、ヘアドネーションの活動を知り、未来ある子ども達を支援するため、今回のチャリティーコンサートを企画。グループ名の七のおと(Nana-note)には、親友の名前の一文字「七」と、英語で音を表す「note」の二つの意味を込めている。

【ヘアドネーションとは】

頭皮・頭髮に関わる何らかの病気が原因で髪の毛を失い、ウィッグを必要としている子ども達に、医療用ウィッグの原料となる毛髪を間接的に提供すること。寄付された髪の毛は、当団体によって選別・加工の工程を繰り返したのち、ウィッグとして生まれ変わり、レシピエントの元に届けられています。

【JHD&C とは】

JAPAN HAIR DONATION & CHARITY は、一般のドナーさまからヘアドネーション(髪の毛の寄付)や寄付の受け付けを開始した日本初の団体であり、それらのご寄付により医療用フルオーダーウィッグ『One wig』を制作し、無償提供を行っている NPO 法人。

JHD&C(愛称・ジャードック)は、小児ガンや無毛症、先天性の脱毛症、不慮の事故などで髪の毛を失ってしまった子ども達に、医療用ウィッグを提供することで「社会性の復権」をサポートし、子ども達の未来を守ることを目的として設立されました。単なる流行で終わらせることなく、寄付に象徴される人々の助け合いや社会文化のために、この活動を定着させていきたいと当団体は考えています。その先には、私たちが理想とする「必ずしもウィッグを必要としない社会」病気が事故で髪をなくしても、クラスメートから奇異な目で見られることなく、これまで通り友だちとして接してくれる、そんな仲間や友だちがいる学校。ウィッグを身につけなくても、電車の中でジロジロと見られない社会。いろんな髪型が個性として認められているように、「髪がない」ことも 1 つの個性として受け入れられる、そんな成熟した社会を目指して、微力ながらも活動を続けて行こうと思っています。